ポリオワクチン支援に力

地域の未来を描こう

ふくいSDGsパートナー

◆キャップアート看板で啓発

伸海エンジニアリング　坂井市

上下水道施設の維持管理などを手がける「伸海エンジニアリング」（坂井市三国町）は、ペットボトルのキャップの回収を通して子どもにポリオワクチンを贈る活動に力を入れている。集めたキャップの一部は業者に引き渡す前に、「エコキャップアート」と銘打った看板の制作に使用。イベントの広報手段などとして活用するとともに、キャップの収集運動の広がりに一役買っている。

キャップの収集は「ふくいSDGsパートナー」登録後の2022年2月に始めた。社員の協力でたくさんのキャップがたまり、「もうひと活用できないか」とエコキャップアートを着想。物珍しさから大勢の目を引きやすいPR物となる上、連携先の企業・団体、制作の参加者、看板を見た人にワクチン支援活動への協力を求める方策になると考えた。

北陸新幹線県内開業や三国祭、福井フェニックスまつりの「YOSAKOIイッチョライ」―。看板は色とりどりのキャップをトレーにはめ込み、モザイクアートの要領で作り上げる。各イベントで福井市やえちぜん鉄道、地元の小学校などと連携し、それぞれに合ったデザインを考案。今年2月までに計10回、制作・展示してきた。

ペットボトルのキャップを使った「エコキャップアート」。11作目では長坂さんの活動を紹介した＝坂井市三国町の伸海エンジニアリングで

看板の役目を終えると、キャップは提供先の業者で換金された後、NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」（東京）に寄付される。約860個のキャップが1回分のワクチンに変わる。伸海エンジニアリングでは、23年12月までに計70キログラムほどのキャップを業者に持ち込み、35・5回分のワクチン支援につなげた。

11作目では、3月初めに出展した県のSDGs講演会に合わせ、福井市出身の美術家、長坂真護（まご）さん(39)を取り上げた。ガーナのスラム街の環境・貧困問題を解決するため、長坂さんが取り組むアート作品の売り上げを現地に還元する活動を紹介。画面には、ガーナの国旗や長坂さんの名前のイニシャルをあしらった。

林岳宏（がくひろ）・取締役業務部長は「普段の業務で関わらない異業種の会社とつながりができる機会になる」と取り組みのメリットを話す。エコキャップアートを「静かなキャラバン」と呼び、「設置するだけでキャップを集めていると呼びかけられる。そばに回収ボックスもあるので、どんどん持ってきてもらえれば」と力を込めた。（曽根智貴）

昨年4月に制作、展示された三国祭の看板＝福井市のえちぜん鉄道福井駅で

メモ

2021年8月、「ふくいSDGsパートナー」に登録。上下水道施設の維持管理のほか、警備員、セキュリティーシステムによる施設やイベント会場の警備、オフィスビルや店舗の清掃、臭気測定といったサービスを提供している。1980（昭和55）年11月に設立され、今年2月時点の社員数は約210人。

県内ワイド

県内の交通事故

8日

事故総件数	63件
人身事故	0件
死　者	0人
負傷者	0人

今年累計

事故総件数	4078件（−217件）
人身事故	167件（−25件）
死　者	3人（−1人）
負傷者	193人（−21人）

※9日午前0時現在（　）内は昨年比　県警本部調べ

あすの暦　旧2月2日
日出 6:12　日入 17:59
満潮 2:25　15:29
干潮 9:45　21:29

あすの月　（三国港標準）
月齢 0.7
月出 6:44
月入 19:03

きのうの気温と天気

福井	雪	
最高	5.9度	（11.0度）
最低	1.2度	（2.0度）
敦賀	曇	
最高	5.9度	（11.2度）
最低	3.0度	（3.5度）

（カッコ内は平年）